



音楽のよろこび

2023年8月28日 No.52
発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子

～サマーコンサートを楽しみましょう～

今日のプログラムは、前半はバッハからベートーヴェン、そしてドホナーニの弦楽三重奏セレナードハ長調です。ドホナーニって誰?という方もおられるかもしれませんが、そこで…

《ドホナーニについてちょっと予習》辞典より

Ernő (Ernst von) Dohnányi (1877～1960) (ドイツ名は、エルンスト・フォン・ドホナーニ) ハンガリーのピアノ奏者、作曲家、指揮者 1949年に渡米(亡命)ブラームスの影響を受けた後記ロマン主義、そしてハンガリーの民族色を持つ。交響曲第一番、ピアノと管弦楽のための童謡主題による変奏曲等の作品がある。

今日演奏される、「弦楽三重奏のためのセレナードハ長調」5つの楽章からなりドホナーニの代表曲のひとつです。(田中)は以前からCDで聴いていましたが、生演奏は初めてです。後半のモーツァルトの五重奏曲第3番K515、これも名曲です。

そして今日来ていただいた演奏家の皆さま、ヴァイオリン 松浦奈々さん、同じく宮田英恵さん、ヴィオラ 小峰航一さん、同じく金本洋子さん、チェロ 日野俊介さん。いずれもおとらぬ名手ぞろい。もう期待で胸が高鳴ります。さあ楽しみましょう。開演です。

♪ 前回 「トロンボーン」岡本哲さん 西村菜月さん 赤井寛延さん ♪

15世紀から教会で使われてきたトロンボーン、他の楽器と違い、全ての音が出せる唯一の楽器として讃美歌の伴奏をしていた楽器、そして、それを初めて交響曲に取り入れたのが、ヴェートーベン交響曲第5番の4楽章。ヴェートーベンという人は、やはり時代を拓く人だったのですね。

それ以降シューベルト、ブラームス、美しいハーモニーをつくり出す…交響曲第一番4楽章、今までにない和声…そして、マーラー、ブルックナーへ、というトロンボーン音楽の使われ方の変化があったことを、ユーモアたっぷりの岡本さんのお話とともに、聴いていただきました。

後半は古楽で「サクバット」と言っていたトロンボーンが、音量が必要となってくる。そして、ロシア音楽では、大きなサウンドとして使われたこと。ベルがだんだん大きくなり、きらびやかな音をチャイコフスキー4番で。そしてワーグナーの音楽へ、「ワルキューレの騎行」そして、ラヴェル「ボレロ」での演奏が困難な使い方のこと、



グリッサンド(音の切れ目のない演奏をする)可能な点の活用。ラヴェルは、トロンボーンをよく知っていたこと。そして、マーラーの容赦のないトロンボーン演奏力の必要……作曲家、時代によって楽器・演奏の発展があった事を学びました。

アンコールは、ヒンデミットの「ウェーバーの主題による交響的変容」のトロンボーンパートの演奏。

分かりやすく、ユーモアにとんだお話、そして2017年に来られていた3人のお弟子さんは、立派に活躍されていることもお聞きしました。

岡本さん 西村さん 赤井さん 楽しい時間をありがとうございました。

～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
もあります。ご了承ください。



トロンボーンは古い歴史がありながら、教会音楽で使われる楽器として、神の楽器とされていたというお話、興味深かったです。響きやハーモニーが美しく、音楽家としては交響曲にも登場させたいと思うのは、自然なことだったのでしょね。作曲家というのは、演奏する楽器をイメージして、パートを構成するのだろうが、演奏する側にとっては、困難なことも多いのだという事が、今日の講義でより一層わかりました。オーケストラのCDを聴く時には、どこでどの楽器が活かされているのか、よく耳を傾けようと思いました。時間があつという間に過ぎていきました。(外村律子さま)

* * * * *

トロンボーンの色、ハーモニーの美しさをあらためて感じました。交響曲の中でのトロンボーンの歴史、役割、オーケストラの中での位置付けや役割等、とても興味深く学びました。ありがとうございました。

* * * * *

トロンボーンの優しくふくよかで雄大で温かみのある音は、いつ聴いても素敵です。2nd吹かれた西村さんがいい仕事されていました。ハーモニーは内声しだいですね。ボレロソロ軽く音を出されて美しかったです。吹奏楽では、トロンボーンのための曲があります。次回はこれらの曲も取り上げていただければ、嬉しいです。(布川博さま)

* * * * *

トロンボーンが高貴な楽器だという事を初めて知りました。歴史や役割など詳しく話されて、トロンボーンのことがよく分かりました。演奏が難しそうな楽器という思いがあつたのですが、本当に難しいですね。すばらしい音色で聴くのが楽しかったです。(調子恵美子さま)

大人の音楽教室ならではの「トロンボーン」の交響曲での使われ方の話、笑いのある楽しい音楽歴史と、迫力ある音量、腹に響きました。次にオーケストラによる交響曲を聴く時、トランペット演奏時以上に注視したいです。トロンボーンの筒に何の印もないのにどのように音階を取るのかも答えていただき、これからの教室が楽しみです。

* * * * *

とても楽しい講義でした。
トロンボーンの可能性素晴らしい

* * * * *

本日はありがとうございました。日常から離れた落ち着いた時間を過ごすことができました。トロンボーンのハーモニーに感動し、音楽史におけるトロンボーンの登場の仕方、15～16世紀頃は交響が大衆音楽だったことなど、感心することが沢山あり、勉強になりました。岡本さんのお話とても面白かったです。トロンボーンの奥深さを知ることが出来、とても有意義な一日でした。(荒井亨さま)

* * * * *

オーケストラの裏話が、興味深かった。

* * * * *

トロンボーンの歴史、オーケストラの中での役割など、初めて知ることばかりで、興味深く、また、トロンボーンの深みのある様々な色合いの音色にも魅了されました。

* * * * *

岡本さんの丁寧な説明で、トロンボーンの良さと歴史が、よく分かりました。ありがとうございました。

実によかった。トロンボーンの使用方の歴史。
トロンボーンがシンフォニーの中でどの様に使われ
ているか良くわかった。



わかりやすく楽しいお話で楽しい!!!
和音が美しく、曲を支えていることがよく分かりま
した。生音が心に響きます。

ベートーベンから始まるオーケストラにおける歴史
を、楽しい話と実演で聴かせていただき、大変良かっ
たです。



今日はトロンボーンかと思って参加しましたが、大
変楽しいお話でした。今日の曲をもう一度全曲聴く
中で確かめたいと思います。



：私と京響・そして外山雄三さんのこと：※
田中 正恭

今から五五年前、私は受験に失敗、京都で予備校
に通いながら、浪人生活を送っていました。
受験勉強もはかどらず、ウツウツと円山公園をト
ボトボ歩いていたらある日、きれいなオーケストラの
音楽が聴こえ、スーッと入っていった円山音楽堂、
そこで演奏していたのが、京響でした。それが私と
京響の出会いでした。
聴いた曲が何であるかは記憶にないのですが、
はつきりと覚えているのは、指揮者が外山雄三さん
であったということです。外山さんは、N響を指揮
している姿を白黒テレビで見て知っていて、その日
もすぐ彼であるとわかったのです。
一曲が終わり、外山さんがアナウンサーのようなき
れいな言葉づかいで、語り始めました。
私は今日、反権力の大演奏会などということをや
ろうとは思っておりません。私はただ、この京都
市交響楽団の楽員の皆さんの待遇が少しでも良
くなるようにという願いをもって演奏をしています。聴
いて下さる皆さまが、その事を知っていただければ
嬉しく思います」という主旨だったと思います。当
時の楽員の皆さんの待遇が、芸術家にふさわしいも
のとは到底言えないという事を、私は知りまし
た。
外山さんは聴衆を大事にしようと思えば、演奏家
が大事にされなければ...という信念をお持ちの、
そしてクラシック音楽を、我国にしっかり根付かせ
るために、作曲家、指揮者としての仕事を生涯にわ
たって一貫して続けられたのだと思います。最近の
NHKの特別番組でも、そのように私は感じました。
その外山さんが、七月一日に亡くなられました。
享年九二歳。
一音楽ファンとして、本当に残念です。

※外山雄三さん 日本を代表する指揮者 作曲家

1952年にNHK交響楽団に打楽器の練習員として入団。その後指揮者としてデビュー

1979年にNHK交響楽団 正指揮者に就任したほか、大阪、京都、名古屋、仙台、神奈川など全国各地にあるオーケストラの音楽監督・指揮者を歴任する

・大阪フィルハーモニー交響楽団 専属指揮者 ・京都市交響楽団 常任指揮者 等

次回は11月27日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「オーボエ」 高山郁子さん

2017年以来2回目となります。皆さんはこの楽器に
どんなイメージをお持ちですか??



メ 七